

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） <文学部> 文学部の「教育研究上の目的」、「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」、「カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）」を2017年度版新入生サブテキスト『文学部へようこそ』巻頭に記載してさらに広く周知するよう努める。 <人文科学研究所> 全面的な改善が急がれるホームページの全面的な改善計画についてはすでに策定済である。この改善をホームページに反映できるよう、16年度以来要請してきたホームページのリニューアル作業を担当部局に再度要請する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部、人文科学研究所
評価基準1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	<文学部> 文学部の淵源は、1923（大正12）年に設立された本学の前身である大東文化学院にあり、本学において最も長い歴史を有する学部である。したがって、文学部は、本学の創設時における理念、さらにはそれを現代的に読み替えた現在の理念「アジアから世界へ—多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を最も直接的に体現してきた学部である。学部および学科の教育研究上の目的は、以下のように学則に定めている(A1-1第2条の2第1号)。 文学部は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することを目的とする。 文学部日本文学科は、日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。 文学部中国学科は、中国古典学に関する学識を修め、中国文化圏に対する深い洞察力と国際感覚を有する人材の養成を目的とする。 文学部英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。 文学部教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。 文学部書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。 <人文科学研究所> 本研究所の設置目的は、平成2年制定の「大東文化大学人文科学研究所規程」に、「人文科学に関する学術の研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果を社会への還元を目的とする。」と明記されている。この理念・目的のもとに、創設以来、学術研究、関連事業、成果の社会への還元が、いずれも順調に行われて今日にいたっている。また国際化についても、外国籍の研究員が11名に増加した。とはいえ、「大東文化大学人文科学研究所規程」のこの理念には、個性化、独自性、国際化の観点から不十分であり、学部附設研究所における個性化、独自性、国際化に応えられる理念の形成と具体的な措置を検討する必要がある。
-----	--

	<p>る。また、研究班のさらなる活性化については、共同研究の豊富な経験者をゲストに招いた座談会において意見交換を行い、研究班の活性化に資しているが、理念・目的を実質化する具体的施策の有効性の検証方法については、模索中で進展がない。</p>
1-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p><文学部> 理念・目的の設定について。【×】 具体的事例：</p> <p><人文科学研究所> 理念・目的の設定について。【×】 具体的事例：</p>
1-2	<p><文学部> 文学部の教育研究上の目的は、学部ホームページ、文学部『履修の手引』への掲載、学部・学科ガイダンスでの説明、教授会や学科会議での告知、受験生向けのオープンキャンパス、相談会、高等学校への出前授業などで周知している。 新たな取り組みとして、新入生サブテキスト『文学部へようこそ』を発刊し、教職員へは4月教授会で、学生へは各学科基礎演習等の授業で配布し、周知するとともにアンケートを取って、その有効性を検証した。 文学部のホームページに、新入生サブテキスト『文学部へようこそ』を掲載している。(B1-6、A1-9 p.2、B1-22 d2-表1)</p> <p><人文科学研究所> 「大東文化大学人文科学研究所規程」に明記される本研究所の理念・目的をはじめ、諸活動についても、ホームページに常時掲載している。理念・目的に基づく諸活動については、毎年度「人文科学研究所所報」の公開を通じて大学構成員はもとより社会にも年度単位の諸活動を公開し、2015年度には「人文科学研究所規程」も掲載することにした。ただし、予算削減により2016年度以降はその刊行を断念したが、ホームページ運営の関係部署に提言して、本研究所のホームページにアクセスしやすくなったこともあり、所報に記載してきた活動報告をホームページ上に公開する方法に切り替えた。また、諸活動や研究員の追加・変更等は、学部長・研究科委員長・学科主任・所長等で構成する運営委員会で審議し、さらに教授会で報告乃至承認を得るなど、大学構成員への周知も十全に行える体制が整備されている。また、研究班の研究報告会や講演会・座談会等の活動については、他学部や他学部附設研究所等にも周知しているほか、大学院生への周知も行っている。ただし、理念・目的の本研究所研究員における理解度を検証するためにアンケートを2015年度に実施し、2016年度も継続して実施する。</p>
1-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p><文学部> (1) 構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【×】 具体的事例： (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：。</p> <p><人文科学研究所> (1) 構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：規定および諸事業のいっそうの周知のために、研究員対象のアンケートを継続する。 (2) 社会への公表方法について【○】 具体的事例：研究所のホームページに、規定を掲載しているほか、運営委員会で審議し教授会で報告乃至承認を得るなど、大学構成員への周知も行っている。</p>
1-3	<p><文学部> 毎年、文学部教務委員会（学部・各学科に設置）において、理念・目的の適切性について、検証する機会を設けている。また、年度ごとの自己点検・評価でも検証を行っている(B1-16)。</p> <p><人文科学研究所> 理念・目的を果たすべく実施する具体的施策は、人文科学研究所規定にしたがって、専任研究員で組織する研究部会において協議し、さらに学部長・研究科委員長・学科主任・所長等で組織する運営委員会に諮ったうえで実施している。また、理念・目的の本研究所全研究員における理解度を検証するためのアンケートも実施している。</p>
1-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p><文学部> 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：</p>

	<p><人文科学研究所></p> <p>理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】</p> <p>具体的事例：</p>
--	---

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	新入生サブテキスト『文学部へようこそ』の発刊
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	<p><文学部></p> <p>平成 30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請と、全学教務委員会の3つのポリシーの見直しを踏まえ、文学部教務委員会において現行の「教育研究上の目的」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の見直しを行う。</p> <p><人文科学研究所></p> <p>学部附設研究所における個性化、独自性、国際化については、本学文学部の将来計画の必要に応じて、研究部会等で協議しつつ理念形成に努める。</p>
1-2	<p><人文科学研究所></p> <p>本研究所のホームページを、新たな取り組みを反映できるよう 2017 年度にリニューアルする必要がある。</p>
1-3	<p><人文科学研究所></p>

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

	達成目標	目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	<p><文学部></p> <p>1-2 新入生向けのサブテキストを刊行し、学部学科の理念、目的が学生に周知されている。</p>	サブテキストが刊行されている。サブテキストを基礎演習等の1年次科目で使用し、理念・目的が学生に広く周知されている。	→			S	S	
	<p><人文科学研究所></p> <p>1-1 研究部会や研究員による座談会等を通じて、研究班のさらなる活性化を進めつつ、研究所の個性化、独自性、国際化についても、理念形成に繋がられるように、適時取り上げて長期的に意見交換を行う。</p>	研究部会等の議事録等における経年変化。	→			B	B	
	<p><人文科学研究所></p> <p>1-2 理念・目的の周知方法及び適切性を定期的に検証するためのアンケート内容を協議し、実施する。</p>	研究部会等の議事録、アンケート集計結果。	→			A	B	
16年度 目標	<p><文学部></p> <p>1-2 刊行したサブテキスト『文学部へようこそ』を使用し、学部学科の理念、目的が授業を通じて、学生に周知されている。</p>	左記のテキスト使用状況を通じて意見の集約を行う。				S		
	<p><人文科学研究所></p> <p>1-1 研究班のさらなる活性化について、適時、研究部会、座談会等における意見交換を行う。</p> <p>理念・目的を実質化する具体的施策の有効性の検証方法を検討する。</p>	16年度の研究部会等の議事録				B		
17年度 目標	<p>(対象期間は2017年4月～2018年3月)</p> <p><文学部></p> <p>1-2 刊行した新入生サブテキスト</p>	左記のテキスト使用状況を通じて意見の集約を行う。 学生・教員へのアンケートを取る。					S	

	『文学部へようこそ 2017』を使用し、学部学科の理念、目的が授業を通じて、学生に周知されている。	文学部教務委員会において現行の「教育研究上の目的」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の見直しを行う。					
	<p>(対象期間は2017年4月～2018年3月)</p> <p><人文科学研究所></p> <p>1-1 学部附設研究所における個性化、独自性について、研究部会等で何が可能か意見の交換を始め、長期的に理念形成に努める。</p> <p>1-2 新たな取り組みを反映できるよう、ホームページをリニューアルする。</p>	<p>リニューアルしたホームページ</p>			A		

IV 評価専門委員会所見

<p><文学部></p> <p>1-2【現状】【効果】 新入生サブテキスト『文学部へようこそ』を発刊し、教職員へは4月教授会で、学生へは各学科基礎演習等の授業で配布し、周知するとともにアンケートを取って、その有効性を検証したことは、他学部の参考モデルになるような、とても良い例として大いに評価できます。</p> <p><人文科学研究所></p> <p>1-2【現状】 構成員（教職員、学生）に対する周知方法とその有効性について、取組について○を記入されていますが、従前より実施されていることと、新たに取り組まれたことが明確に書き分けられていないようです。前年度の取組に対して、どのような成果が出ていることを検証したのか、第三者がみて分かりやすく記述してください。</p> <p>1-1【目標】 学部附設研究所における個性化、独自性について、研究部会等で何が可能か意見の交換を始め、長期的に理念形成に努めるとい目標達成の指標となるものの記述をお願いします。</p>

V 所見への対応

<p><文学部></p> <p>1-2【現状】【効果】：継続して努力します。</p> <p><人文科学研究所></p> <p>1-2【現状】 構成員に対する周知方法については、アンケート内容を改めて実施した。その成果の検証は、アンケートの集約をもっておこなっている。</p> <p>1-1【目標】 学部附設研究所に求められる更なる個性化、独自性とは何か、予算措置が望めない状況下で何が可能かという課題は、長期的に話し合っていかなければならず、目標達成の指標としあげうるものは議事録以外にないが、議事録にも記録できる状況までまだ煮詰まっていない。</p>
--

VI 次年度への課題

<p><文学部></p> <p>特になし</p> <p><人文科学研究所></p> <p>リニューアルを終えた新ホームページを研究員が閲覧したうえで回答するアンケートの内容を検査し実施する。</p> <p>経費無しの場合、理念形成に繋げられる研究所の個性化、独自性、国際化の可能性について意見交換する機会の設置。</p>
--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<p>A1-1 大東文化大学学則</p> <p>A1-9 文学部 履修の手引 平成 28 (2016) 年度入学生用</p> <p>B1-6 大学ホームページ (情報公開) http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html</p> <p>B1-16 大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動)</p> <p>http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html</p> <p>大東文化大学ホームページ (「文学部へようこそ」新入生サブテキスト発行) 現在は 2017 年版が表示、PDF となっている。</p> <p>http://www.daito.ac.jp/education/literature/news/details_11631.html</p> <p>B1-22 大学データ集</p>

<大学基礎データ>

d1-表1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2016年4月1日現在）

〔追加資料〕